

個に応じた授業の展開～自由進度学習を含めた単元計画～

足立区立竹の塚中学校 主任教諭 藤本 博之

はじめに

令和3年1月の文部科学省「中教審答申」では、個別最適な学びの実現が提言され、特に「指導の個別化」や「学習の個別化」が重要視されている。これに基づき、学習方法や教材の柔軟な提供、生徒一人一人の特性や学習進度に応じた指導が求められている。さらに、学習指導における自己調整するの学びの重要性が強調され、今後の授業では生徒が自己調整を行いながら学ぶことが推奨されている。また、令和6年4月に発表された「ベネッセ教育総合研究所 小中高校の学習指導に関する調査 2023」では、教師主導の講義が減少し、生徒主体の授業が増加していることがわかった。しかし、自己調整学習においては、進度や習熟度に応じて自分で学習方法を選ぶ授業は、中学・高校で低下している。これらの背景を踏まえ、私は普段の授業において自由進度学習で行う部分を導入し、生徒が学習の進め方を自ら調整する力を育む授業実践を行った。

実践内容

本実践は、第一学年の「動物の分類」と「気体の性質」に関する学習において行った。まず、動物の分類では、生徒がセキツイ動物と無セキツイ動物の特徴を調べ、スライドでまとめる自由進度学習を実施した。生徒一人ひとりが自分のペースで学習を進めることができ、興味関心に基づいて学習内容を選択・深掘りできる環境を提供した。

気体の性質に関する実験では、生徒が酸素や二酸化炭素を発生させ、それぞれの気体の性質を調べる活動を行った。この部分では、自由進度学習の中で、最低限の学習課題として酸素と二酸化炭素の発生と性質調査を設定し、生徒が自己調整しながら実験に取り組んだ。

学習の改善点を共有する機会も設けた。これにより、生徒は自分の学びを振り返り、次に進むべ

き方向を自ら考える力を養った。

成果・課題

実践の結果、生徒の技能の定着率は高く、特に酸素と二酸化炭素の発生・収集実験に関しては、約95%の生徒が目標達成した。自由進度学習の効果として、予想を立てる力、実験の計画性、観察・考察のスキルも向上した。生徒は自ら進度を調整し、何度も実験を繰り返しながら、技能を着実に習得することができた。

また、自由進度学習を通じて、生徒が課題設定や解決に主体的に取り組む姿勢が見られ、自己調整力の向上が確認された。特に、実験の過程でうまくいかなかった場合に再度試行錯誤し、他の生徒と協力して学ぶ姿勢が育まれた。学習の主体性を高めるための取り組みが効果を上げたと考えている。

一方で、課題も浮き彫りになった。特に、進度が個別に異なるため、学習のペースを調整するのが難しいという点が挙げられる。ある生徒は順調に進んでいく一方で、他の生徒は進め方がわからずに停滞してしまうこともあった。また、学習内容が難しくなると、生徒は自由進度学習のメリットを実感しにくくなる傾向も見られた。

今後の展望

自由進度学習を授業の中でどのように取り入れるかをさらに探求し、生徒一人一人の学びを支援する効果的な授業展開を目指していく。また、学習内容や進度に応じた個別の指導を強化し、生徒が自己調整しながら学ぶ力をさらに高めるための環境を整えていく。今後も自由進度学習の効果を最大化できるよう、実践を継続的に見直し、改善を加えていきたいと考えている。